

タ ラ ノ キ の 育 苗 法

丸 子 武 志・齋 藤 克 哉\*・岡 部 和 広\*

(山形県山形農業改良普及センター・\*山形県農業研究研修センター中山間地農業研究部)

Nursery of Angelica Tree

Takeshi MARUKO, Katsuya SAITOU\* and Kazuhiro OKABE\*

( Yamagata Agricultural Extension Service Center・\*Department of Hilly and Mountainous Areas Agricultural Studies, Yamagata Prefectural Agricultural Reserch and Training Center )

1 は じ め に

本県の主要な山菜であるタラノキは、15cm前後に調整した種根を芽出しし、直接畑に植え付ける「挿し根法」で増殖が行われている。しかし、「挿し根法」は、活着が不安定で欠株が生じやすい。このため、初期生育を安定させ、生育の揃いを向上させるタラノキの育苗体系の確立のため、種根の前処理、種根サイズ、芽出し温度について検討した。

2 試 験 方 法

(1) 試験1 種根の前処理

品種は‘あやの’を用い、①種根をTPN 1,000倍液に30分浸漬したTPN浸漬区、②TPN 1,000倍液に30分浸漬後チウラム・ベノミル(T・B)を粉衣したTPN浸漬+T・B処理区、③種根の切り口にチオファネートメチル塗布剤を原液塗布したチオファネートメチル塗布区を設けた。供試した種根は、種根サイズ7.5cmが12本、15cmが14本で、芽出し処理は1998年3月16日から4月20日まで25℃の定温条件で行った。

(2) 試験2 種根のサイズ

品種は‘あやの’を用いて、種根のサイズを①5cm、②7.5cm、③15cm(慣行)に調整し育苗を行った。供試種根数は1区30本とし、種根の切り口にはチオファネートメチルを原液塗布した。芽出しは、1998年4月17日から5月

13日まで行った。芽出し温度は、処理開始5日間は20℃、その後25℃で管理した。

(3) 試験3 芽出し温度

品種は‘あやの’を用い、芽出し温度を①20℃、②25℃、③30℃に設定した。種根はサイズを7.5cmに調整後切り口にチオファネートメチルを原液塗布し1区当たり30本を供試した。芽出しは、1998年4月17日から5月13日まで行った。

表1 種根の処理と腐敗

区名 処理	種根			出芽 率 (%)	未出芽 率 <sup>1)</sup> (%)	腐敗	
	サイズ (cm)	重量 (g)	直径 (mm)			率 <sup>2)</sup> (%)	程度 <sup>3)</sup> (%)
TPN浸漬	15	4.4	6	0	—	100	100
	7.5	5.9	10	25.0	0	91.7	79.2
TPN浸漬+ T・B粉衣	15	4.3	6	0	—	100	100
	7.5	5.5	9	0	—	100	100
ネオファネートメチル 塗布	15	4.4	6	64.3	35.7	0	0
	7.5	6.2	10	91.7	8.3	0	0

注. \*1 : 腐敗せず出芽しない種根

\*2 : 出芽した種根も含む

\*3 :  $\Sigma$  (腐敗指数×個体数)

(4×供試数)

腐敗指数

1 : 切り口部柔らかい 3 : 腐敗が種根の1/3

2 : 腐敗が種根の1/4 4 : 腐敗が種根の1/2

表2 種根サイズと生育

区名	種根		出芽率 (%)	未出芽 率 <sup>1)</sup> (%)	腐敗 率 <sup>2)</sup> (%)	腐敗 程度 <sup>3)</sup>	出芽始		鉢上げ	
	重量 (g)	直径 (mm)					月/日	所要日数 (日)	月/日	所要日数 (日)
5cm	2.6	8	86.7	6.7	8.0	6.6	4/27	10	4/30	13
7.5cm	3.8	8	80.0	10.0	10.0	10.0	4/25	8	4/29	12
15cm	7.2	7	100	0	0	0	4/25	8	4/29	12

区名	鉢上げ時				育苗終了時 <sup>4)</sup>					
	芽数 (芽/ 種根)	最大 芽長 (mm)	発根率 (%)	根数 (本)	最大 根長 (mm)	葉数 (枚)	最大 葉長 (cm)	地上部 新鮮重 (g)	地下部	
	(芽)	(mm)	(%)	(本)	(mm)	(枚)	(cm)	(g)	種根 新鮮重 (g)	新根 新鮮重 (g)
5cm	1.6	17	26.9	1.9	15	2.4	18.6	2.9	2.2	0.7
7.5cm	1.5	18	41.7	2.5	16	2.9	21.4	4.9	3.7	2.2
15cm	2.6	21	66.7	3.9	21	3.3	26.8	7.0	6.9	2.6

注. \*4 : 新鮮重は5株 6/5調査

表3 芽出し温度と生育

区名	種根重量 (g)	直径 (mm)	出芽率 (%)	未出芽率* <sup>1</sup> (%)	腐敗		出芽始		鉢上げ	
					率* <sup>2</sup> (%)	程度* <sup>3</sup>	月/日	所要日数 (日)	月/日	所要日数 (日)
20℃	4.9	9	100	0	0	0	4/26	9	5/2	15
25℃	4.5	8	90.0	10.0	0	0	4/24	7	4/28	11
30℃	4.5	8	86.7	13.3	0	0	4/24	7	4/30	13

  

区名	鉢上げ時					育苗終了時* <sup>4</sup>				
	芽数 (芽/種芽)	最大芽長 (mm)	発根率 (%)	根数 (本)	最大根長 (mm)	葉数 (枚)	最大葉長 (cm)	地上部新鮮重 (g)	地下部	
									種根新鮮重 (g)	新根新鮮重 (g)
20℃	1.8	14	56.7	2.3	15	2.5	22.8	4.7	4.0	1.2
25℃	2.1	14	51.9	3.1	23	2.8	22.6	6.4	4.2	2.2
30℃	2.1	17	34.6	2.4	19	2.6	18.0	4.8	3.6	1.2

注. \*4: 新鮮重は5株 6/5調査

(4) 栽培管理の概要

種根は1年間養成した株から採取した。水稻用育苗箱に培養土を充填し、種根を1列に並べて芽出しを行い、芽の長さが10~20mmに達したときに順次再生紙ポットに鉢上げした。

3 試験結果及び考察

(1) 試験1 種根の前処理

TPN 浸漬区と TPN 浸漬+T・B 粉衣区はほとんど腐敗したが、チオファネートメチル塗布区は全く腐敗しなかった。これは、チオファネートメチル塗布剤が切り口を保護し、ゆ合が促進され、樹液のいつ液がなかったためと考えられた。種根のサイズでは、7.5cmが出芽率が高かったが、これは種根の径が太いためと考えられた(表1)。

(2) 試験2 種根のサイズ

5cm区と7.5cm区で腐敗が発生した。出芽率は15cm区が最も高かった。鉢上げ時及び育苗終了時の地上部及び地下

部の生育量は、種根サイズが大きい区ほど大きかった。しかし、種根のサイズは慣行に比較し増殖効率の高い5cmで十分あると考えられた(表2)。

(3) 試験3 芽出し温度

出芽率は20℃区が最も高かった。出芽始めまでの所要日数は25℃区、30℃区が短く、鉢上げまでの所要日数は25℃区が最も短かった。鉢上げ時の出芽数は25℃区、30℃区が多かった。発根率は20℃区が高かったが、25℃区が最も根数が多く根長も長かった。30℃区は萌芽後の芽の伸長が速く、軟弱徒長になることが多かった。育苗終了時の生育は25℃区がやや旺盛であった(表3)。

4 ま と め

効率の良いタラノキの育苗体系は、種根を5cmに調整し、直ちに切り口に保護剤を塗布してから出芽率の高い20℃で芽出し処理を行う。15日前後で芽の長さが10~20mmに達するので、ポットに鉢上げし育苗を行うと良い。